

授業構想・実践報告

学年	教材	検討内容
4年 I学級	「ごんぎつね」 (授業構想)	<p>『なぜ「ごんぎつね」という名前がついているのか?』を大問題として、ごんがする「いたずら」の中身や、そのいたずらの中身が村の人々にとって非常に迷惑ないたずらであることに着目して授業構想を考えた。しかし、中心人物はごんのため、ごんに焦点を当てて大問題を考えるべきであった。「いたずらばかり」の「ばかり」や、「夜でも昼でも」の「でも」、「ひとりぼっち」の「ぼっち」の言葉に着目し、ごんがするいたずらの中身や、“ごんはどんなきつねであるのか”をpushしておくことが必要である。</p> <p>話の内容をよく読み取れていないため、まず教師自身がしっかり話の内容をよく読み取っておくべきである。</p>
6年 H学級	「やまなし」 (実践報告)	<p>「2ひきのかにが居すくまってしまった原因は何か」を追究課題として、子どもたちが意見を出す中で、“居すくまってしまった原因は魚が目の前からいなくなってしまったことである”とみんなを確認できた。</p> <p>しかし、「その原因はかわせみか、魚か」という対立ではなく、「かにの子どもらが居すくまってしまった原因はどの段落か?」という問題にするべきであったか。起こった出来事を時系列で板書し、言葉に注目し直しながら話し合い、全員が参加できる授業を作っていく必要がある。</p> <p>子どもの意見ばかりを取り上げるのではなく、教師自身の中で考えさせたいことに焦点を当てて考えさせたり、全員が授業に参加できるよう、子どもたちから出てきた意見を整理して、挙手で選択させたりすることを行っていく必要がある。</p>